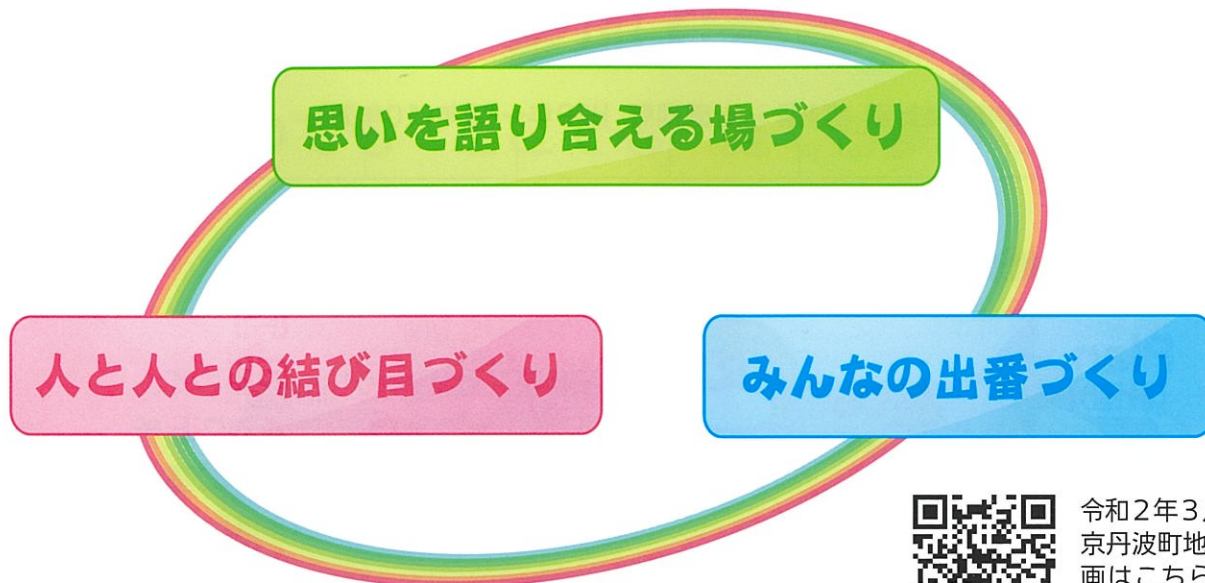


この計画は、令和元年度に策定した第1期計画を、長引く新型コロナウイルス感染症拡大により思うように進められなかったことから、コロナ禍の地域活動のあり方を検証し、第1期計画を発展させていくための1.5期計画です。

コロナ禍によってさまざまなことに気づき、改めて地域活動を考える計画になっています。

第1期 地域福祉活動計画重点目標



令和2年3月発行 第1期
京丹波町地域福祉活動計画
はこちらのQRコード
を読み取るとご覧いただけ
ます。

コロナ禍において

コロナ禍を経験したからこそ、気づいたことがあります。

伝統行事や区の総会、ふれあいサロンなど地域の人が集まる場は交流の場でもあります。人は、人と顔を合わせて身近な情報や日頃の生活の中での些細なことを確認し合うことで、コミュニケーションをとり、ほっこりできるものです。

第1期計画で掲げた3つの重点目標「思いを語り合える場づくり」「人と人との結び目づくり」「みんなの出番づくり」はコロナ禍においても求められるものでした。

役員（メンバー）ですら顔を
合わせて会議することが難
しかった。
オンラインは便利ではある
が、やっぱり顔を合わせて
話がしたい。（地域振興会）

コロナ前の状態に戻したい。
やっぱり、みんなで集まっ
て、楽しく交流することが
大事や。（地域振興会・サロ
ン活動者）

少子高齢化って聞くけど、
京丹波町がここまで少子高
齢化が進んでいるとは知ら
なかった。地域に目をやり
自分ができることはしてい
きたいと思った。
（須知高等学校 1 学年）

令和3年度・4年度とコロナ禍での地域活動について、第1期地域福祉活動計画を策定するにあたりヒアリング、ワークショップを行った各団体に聞き取りを行いました。

